

新やまなし観光推進計画(案)
計画期間 R1~R4

計画の総合的な目標
『やすらぎと感動の山梨』

旅行者に対する目標

「旅行者の期待に応える山梨」

地域に対する目標

「地域がいきいきしている山梨」

観光産業に対する目標

「働く魅力あふれる山梨」

本県観光を推進する上での課題

- ①おもてなしの趣旨の浸透
- ②良好な景観の形成
- ③地域資源の保護・保全・再興
- ④旅行者の安全性・利便性・快適性の確保
- ⑤旅行形態・ニーズの多様化への対応
- ⑥誘客につながる情報の効果的な発信
- ⑦外国人旅行者へのプロモーション
- ⑧外国人旅行者の受入環境の整備
- ⑨観光産業の更なる高付加価値化
- ⑩観光人材の育成・確保・定着支援

観光推進の視点：観光産業の高付加価値化により、県経済の第2の柱へ

観光消費額増加

- 旅行者の満足度向上
- 滞在時間の延伸
- 地域資源の磨き上げ

地域経済への波及拡大

- 地場製品の観光活用
- 他産業との連携強化

観光産業の収益力向上

- データに基づく観光の推進
- 観光事業者の生産性向上
- 観光人材の確保・育成・定着

県経済の第2の柱へ

県経済の振興
 及び活力に満ちた
 地域社会の実現

観光振興戦略(施策の展開)

I 受入環境の整備

地域全体で温かく旅行者を迎えるため、住民の郷土教育やおもてなしに主体的に取り組む人材の育成、美しい景観づくり、文化財などの地域資源の保全に取り組む。
 また、外国人旅行者のための多言語化など、旅行者の安全性と利便性、快適性の確保に取り組む。

(重点的な取組)

- ①県民主役のおもてなしの推進
- ②美しい景観づくりの推進
- ③地域資源の保全、磨き上げ
- ④外国人旅行者の受入環境整備
- ⑤旅行者の安全性、利便性及び快適性の確保

II 地域資源の活用

コト消費型・トキ消費型といった観光ニーズの多様化や旅行形態の変化に対応するため、磨きあげられた地域資源を活用し、旅行者のニーズに適した体験型プログラムを組み込んだ、富裕層の取り込みや冬季観光の魅力向上につながる着地型観光などの推進に取り組む。

(重点的な取組)

- ①着地型観光・ナイトタイムエコノミー等の推進
- ②富裕層を取り込む観光メニューの充実
- ③県産品を活用したツーリズムの推進
- ④文化・スポーツなどを活用したツーリズムの推進
- ⑤国立公園を含む山岳観光の推進

III 魅力が伝わる情報発信

本県観光の魅力が国内外の消費者に正確に伝わるよう、情報通信技術の活用やOTAとの連携強化による効果的な情報発信に取り組む。
 また、市場特性に合わせた国際観光プロモーションや多様な国際交流の推進に取り組む。

(重点的な取組)

- ①情報のデジタルシフトの推進
- ②ターゲットを意識した情報発信
- ③国際観光プロモーションの展開
- ④国際交流の推進

IV 観光産業の活性化

裾野が広い観光産業の「稼ぐ力」「働く魅力」を高めるため、観光産業の生産性の向上、観光人材の育成などに取り組む。
 また、他産業との連携強化により経済波及効果の拡大に取り組む。

(重点的な取組)

- ①観光産業の生産性の向上
- ②観光人材の育成・確保・定着支援
- ③他産業と連携した経済波及効果の拡大
- ④冬季観光の活性化などによる安定雇用促進
- ⑤文化・スポーツの観光活用による産業活性化
- ⑥国立公園等の観光活用による産業活性化

数値目標

《H30》 → 《R4》

観光消費額
 4,001 億円 → 4,500 億円
 (12.5%UP)

観光客満足度

41.1% → 50.0%
 (1.22倍)

延べ宿泊客数

861万人 → 970万人
 (12.7%UP)

観光ネットアクセス数

994万PV → 1,200万PV
 (20.7%UP)

観光客一人あたり平均消費額

10,616円 → 12,000円
 (13.0%UP)

訪日外国人宿泊客一人あたり平均消費額

16,063円 → 20,000円
 (24.5%UP)

宿泊・飲食業事業者一人あたり付加価値額

223万円 → 260万円
 (16.6%UP)

○計画の推進体制等

- ・県民、事業者、関係団体、教育機関などと連携した県民総参加による推進
- ・国、市町村との連携強化
- ・統計調査等の実施・活用